

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成29年8月17日(2017.8.17)

【公開番号】特開2016-22722(P2016-22722A)

【公開日】平成28年2月8日(2016.2.8)

【年通号数】公開・登録公報2016-009

【出願番号】特願2014-150838(P2014-150838)

【国際特許分類】

B 41 M 5/395 (2006.01)

B 41 M 5/385 (2006.01)

B 41 M 5/39 (2006.01)

【F I】

B 41 M 5/26 L

B 41 M 5/26 K

【手続補正書】

【提出日】平成29年7月6日(2017.7.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

これらの特性を生かして、例えば透過性あるいは半透過性の被印刷体に、裏面から模様等を形成するといった用途に熱転写印刷を適用すること等が提案されている(特許文献1等)。

熱転写印刷により白色の印刷層を形成するためには、感熱転写媒体として、白色顔料によって白色に着色された、熱転写印刷が可能な着色層(白色層)を備えたものを用いるのが一般的である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明は、基材上に、少なくとも酸化チタン、アクリル樹脂、熱可塑性アクリルエラストマおよびワックスを含む熱転写印刷が可能な白色層が形成された感熱転写媒体である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明は、基材上に、少なくとも酸化チタン、アクリル樹脂、熱可塑性アクリルエラストマおよびワックスを含む熱転写印刷が可能な白色層が形成された感熱転写媒体である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

：90以上。

：80以上、90未満。

：75以上、80未満。

：70以上、75未満。

×：70未満。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

表2～4の実施例1～12、比較例1、2の結果より、バインダとともに透明性に優れたアクリル樹脂と熱可塑性アクリルエラストマとを併用するとともに、ワックスを配合することで、ハンドリング性に優れるため白色層が非転写時に不用意に基材から剥離したりせず、また膜切れもよいため熱転写印刷の感度に優れる上、余剥離を生じにくく、しかも白色層の明度や白色度にも優れた感熱転写媒体が得られることが判った。